

Vol.227



かけはし

理念

すべては患者様と
地域社会のために

病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

発行責任者 病院長 中村 吉貴

先生
おたずねします

原発性腋窩多汗症と その治療について

形成外科 医長
西尾 祐美

これから夏に向け、気温が暖かくなっていきます。薄着になる機会も増えてくると思いますが、服の脇の部分の汗染みも気になる季節といえます。

人間は体温調節のために発汗して熱を放散しており、特に頭皮や脇の下、手の平や足の裏は汗腺が発達しています。脇の下に体温調節に必要な量以上の汗をかくことを「腋窩多汗症」と言い、他の病気など明らかな原因がないものを「原発性腋窩多汗症」といいます。

(臭いが気になるいわゆるワキガと呼ばれる「腋臭症」とは異なる病気です。)

今回は、原発性腋窩多汗症に対する治療をご紹介します。

Q どんな治療がありますか？

A 塗り薬「**エクロックゲル**」を使った治療があります。
保険で処方できる日本初の原発性腋窩多汗症に対する外用薬（塗り薬）で、今年度から使用を開始するものです。1日1回の塗布で効果が期待できる新薬で、汗腺のアセチルコリンの働きを局所でブロックすることで、汗を抑えます。軽症から中等症の方が対象となります。



Q 症状が中等症を超える場合の治療方法はありますか？

エクロックゲル5%

A ボトックスを複数力所注入する方法があります。注射から2～3日で効果が出現し、持続期間は4～9か月程度とされています。完治を目指す治療ではないので、症状が再発した場合は改めて治療を行います。保険診療で、窓口での自己負担は1回の施注当たり約2～3万円になります。なお、初診時に問診・治療の説明・製剤の準備などがあるため、受診当日の施注は出来ません。約1週間後に再度外来を受診してもらい施注します。

脇の汗の量が多くて悩んでいる方、詳しい説明を聞いてみたいという方は、形成外科外来までお問い合わせください。

～ **形成外科では** ～

是非、この様なお悩みがあれば、お問い合わせください。

- ・ケガ、やけど、ケロイド
- ・皮膚のできもの／しこり
- ・なかなか治らない傷、足潰瘍
- ・顔面骨折
- ・褥瘡
- ・まぶたの疾患（眼瞼下垂・睫毛内反）
- ・傷跡（目立つ傷、傷痕のもりあがりやひきつれ）
- ・あざ（異所性蒙古斑、太田母斑）
- ・腋臭症

～お問い合わせ先～

形成外科受付：

078-672-2610（外線）

8-63-22610（内線）